

## 平成二十六年事業の概要

平成二十六年「肥後医育  
塾」年間テーマ「さまざまな  
病気と栄養・長寿」を開催

常任理事(事業担当) 遠藤 文夫

県民一人ひとりが豊かで健康的な生活を送れることを目指して、(公財)肥後医育振興会、(一財)化学及血清療法研究所および熊本日日新聞社の主催で、平成二十六年度も市民公開セミナー「肥後医育塾」を開催することになりました。「さまざまな病気と栄養・長寿」を年間テーマとしました。

「栄養」に関わる問題として、メタボなど過栄養についてはよく耳にします。しかし一方では、加齢に伴う食欲減退による栄養不足、後遺症による嚥下障害で栄養摂取がままならないなどの問題もあります。病院や施設でNST(栄養サポートチーム)の活動が注目されていることもその表れといえます。

そこで今年度は、「さまざまな病気と栄養・長寿」をテーマに、さまざまな病気とそれぞれの疾患における栄養対策について考え、学んでいきます。

このテーマの下に、三回の公開セミナー(第五十二回から第五十四回)を行う予定にしております。

このうち、第五十二回は七月六日(日)にホテル熊本テルサにおいて、「生活習慣から消化器の病気を考えてみよう」と題して開催しました。

健康を守るためには、日ごろの生活習慣が重要であることは言うまでもありません。しかし、食べすぎ、飲みすぎ、運動不足など、分かっているにもかかわらず改善できないものです。

今回のセミナーでは、生活習慣と肝臓や食道をはじめとする消化器の病気との関わりに注目し専門の先生方に病態や予防法などについて分かりやすく解説していただきました。

講演では、司会を肥後医育振興会常任理事の遠藤文夫が務め、座長を熊本大学大学院生命科学研究所消化器内科学分野教授の佐々木裕先生にお願いしました。

最初の講演は、熊本大学医学部附属病院消化器内科助教の庄野孝先生から「生活習慣からおきる食道の病気、逆流性食道炎と食道がん」と題して、逆流性食道炎の内科的治療から食道がんの内視鏡治療などについて講演をいただきました。

講演の二番目は、同じく消化器内科特任助教の階子俊平先生から「飲酒からの膵炎、そして膵がん」と題して、膵臓の代表的な病気である急性膵炎、慢性膵炎、膵がんについて、飲酒との関わりや検査・治療法などの講演をいただきました。

講演の三番目は、同じく消化器内科助教の渡邊丈久先生から「意外と怖いぞ、脂肪肝」と題して、脂肪肝に関する最新の話について講演をいただきました。

講演の四番目は、熊本大学大学院生命科学研究所消化器内科学分野助教の直江秀昭先生から「健康にとって大事な腸内

細菌」と題して、善玉菌や悪玉菌など腸内細菌について、また、腸内細菌の乱れが関係している病気について講演をいただきました。

講演の五番目は、熊本中央病院栄養科科長の村岡まき子先生から「食事・栄養と生活習慣」と題して、消化器の病気と食事について講演をいただきました。

約三百五十人の来場者があり、講演終了後のパネルディスカッションでは、講演者全員が登場し、あらかじめ寄せられた質問と会場からの質問に講演者が答える形で行いました。内容を、八月二十二日の熊日日新聞紙面に掲載しました。

今後の予定ですが、第五十三回セミナーは、平成二十六年十月十三日(月・祝)にホテル熊本テルサにおいて、「いつまでも食事を楽しむために、嚥下障害・口腔ケア・食事の工夫・肺炎」と題して、いつまでも食事を楽しむためのヒントとして、嚥下障害・口腔ケア・食事の工夫について、専門の先生方に分かりやすくお話しした、たく予定です。

第五十四回セミナーは、平成二十七年二月中旬頃にホテル熊本テルサにおいて、「慢性腎臓病と栄養(仮題)」と題して、慢性腎臓病や糖尿病などの疾患と栄養などについて解説・紹介する予定です。

総合生活情報紙「あれん  
じ」の健康・医学・医療・  
学術記事の執筆・監修

副理事長 山本 哲郎

本年度も、熊本日日新聞社発行の総合情報紙「あれんじ」(タブロイド版一六頁三五万部発行)の第一土曜日の十面と十一面の見開き二頁について執筆・監修を担当いたします。昨年度と同様に、メインの記事として医学医療関連の「元気の処方箋」を八回(五、六、八、九、十一、十二、二、三月)、また、周辺の学術記事「熊遊学ツーリズム」を四回(四、七、十、一月)掲載する予定です。それぞれの頁のコラム欄ですが、「元気の処方箋」の際の「子育て応援クリニック」(小児科医による解説)(十面)と「慈愛の心医心伝心」(女性医療人によるリレーエッセイ)(十一面)、並びに「熊遊学ツーリズム」の際の「四季の風」(季節の新作俳句)(十面)と「熊本を知らう」(熊本県松橋収蔵庫資料供覧)(十一面)を継続いたします。

なお本年度も、「あれんじ」に掲載後全ての記事を「肥後医育振興会」のホームページに転載し、どなたでも自由に読めるようにすることにしております。